令和 3 年度　全国科学館連携協議会　近畿ブロック会議報告書

1.　開催日時：　令和 4 年 2 月 17 日(木)　13:00～15:30

2.　開催方法:　Zoom によるオンライン開催

3.　出 席 者:　明石市立天文科学館、大阪科学技術館、京都市青少年科学センター、
兵庫県立人と自然の博物館、福知山市児童科学館、バンドー神戸青少年科学館
以上近畿ブロック加盟館　6 館 9 名、 連携協事務局 2 名　計 11 名

4. 会議内容

■講演「新型コロナウイルスの最新の知見と科学館の対応」
神戸市立青少年科学館　館長　和田　智明

現在、世界中の人々を苦しめている新型コロナウイルスについて、細胞内に侵入する仕組み・オミクロン株の特徴・ワクチン開発の状況等について説明した。また、科学館の取るべき対応として、感染防止対策として下記3点を継続する。

①展示室・教室・プラネタリウム等における十分な換気
②不織布マスクの着用、消毒液の頻用、シールドの設置
③小中学生のワクチン接種率が一般に比して低いことを考慮し、多数密集型イベントを極力避ける

■報告：各館情報交換（入館者数の状況、特別展開催報告など）

＜明石市立天文科学館＞
入館者数は昨年度に比べると回復傾向。プラネタリウムの人数制限は継続。
予定していた特別展はすべて実施できた。1月末に「はやぶさ2」のカプセル特別展示を6日間実施し、多くの来館者があった。オミクロン株が流行していたが一番多い日は入館者1,000人。
時間や人数を細かく制限していたため、そこまで混雑せずに見学頂けた。

＜大阪科学技術館＞
10月11月は校外学習で、12月には大きなイベントも実施し、9割まで入館者が戻った時期もあった。
直近は、オミクロン株の感染拡大に伴い、団体見学の延期が続いている。
春の収束を見込み、春のイベントはすでに広報をかけている。
現在は、特別展「サイバスロンとその技術」を実施中。大阪電気通信大学・和歌山大学が大会に出た時の車いすの展示など。2023年に60周年を迎え、その準備を始めている。

＜京都市青少年科学センター＞
京都では2度緊急事態宣言発出。市の方針で4/25～5月・8月～9月の書き入れ時に閉館。
特別展は企業特別展として京都ゆかりの企業の協力を得て実施。京セラ・オムロン等がもっている最先端の技術を紹介している。今年度も実施したが、入場者は例年の半数程度だった。

プラネタリウムの座席は半数に制限を継続。
キャッシュレスはなるべく現金を扱わないようにということで導入。現状、75%は現金。

＜兵庫県立人と自然の博物館＞
8月までは順調に回復し、コロナ前の6～7割まで戻った。11月以降も回復し、12月はコロナ前の水準まで戻った。1月はメンテナンス休館のため、オミクロン株の影響は分からない。
2/8から開館。2月の連休はコロナ前の感触だった。
企画展は、秋に「身近な海のベントス展」を実施し貝・わかめ・カニなどを展示。漁業関係者から好評。
他、オンラインの活用として収蔵庫の中をオンラインで見てもらった。

＜福知山市児童科学館＞
緊急事態宣言の発出により5月、8月お盆過ぎから9月中、2度臨時休館した。
入館者数は11月はコロナ前に戻ったが、1月・2月と徐々に減っている。来館者も慣れてきたのか、しっかり対策すれば楽しめるという雰囲気がある。小中学生の感染が増えてきたため、1月2月は学校学級閉鎖で減った。
自然科学協力員ボランティアとして、生物・地学・天文など専門分野のある方、理科の好きな方など30人が登録。標本を集めたり、屋外での自然観察に出かけたりして下さっている。「由良川に鮭を呼ぼう」では、館内で飼育し3月初めに放流予定。

＜バンドー神戸青少年科学館＞
1月の入館者数は2019年比50%程度。来年度にかけて、展示更新が大きなトピックス。
4月に第2展示室の一部をロボットとAIのコーナーに、2階本館新館連絡通路はこれまでカメラを展示していたがプロジェクションマッピングにリニューアルする。
プラネタリウムは7月にリニューアルオープン。現行機は2/20が最終のため、2/19・20にイベント「ありがとうGSS-KOBE」を実施する。

＜連携協事務局＞
日本科学未来館の状況について。2020年度から来館者が減ってきている。団体は減っていたが、直近は戻ってきている。特別展「リアル脱出ゲーム」や特別企画「超人たちの人体展」を実施。冬は「はやぶさ2」の帰還カプセル展示を実施し、期間中は来館者が増えた。ロボット展が3/18に開幕予定。
館内での学校向けプログラムを準備中。

■協議
①オンラインを活用した取り組みについて
オンライン天体観望会「ほぼ皆既月食」の配信 （明石・神戸）
こども天文クラブ　3回の連続講座をZoomで実施。ブレイクアウトルームを使うなど工夫 （明石）
企業と連携した実験教室を実施。企業が会社から映像で発信し、参加者は科学館で受講 （京都）
教員研修施設だが集まることができないため、実験動画を作成し配信 （京都）

学習素材として植物が育つところをタイムラプスで撮影しHPにアップしている（人と自然の博物館）
団体で来館できなくなった子供たちとオンラインでつないだり、海外の日本人学校からの依頼で、
研究員が授業をしたこともあった（人と自然の博物館）
地域連携の一環で、神戸医療産業都市の一般公開にて、アバターロボットによる展示室ツアーを
生配信（神戸）

②次年度以降の「近畿ブロック会議」の在り方について
神戸市立青少年科学館が、近畿ブロックの幹事館を当館が引き継いで3年目。
3年経ったところで、なかなか幹事館のバトンタッチができないため、今後の方向性を協議したい。

神戸からは、1年または数年ごとの持ち回り制を提案。
連携協事務局から、県ごとに持ち回りをしているブロックもあるとの提案あり。
→近畿の場合、県によって館の数にバラつきがあるため難しい。
正職員が少ない館からは、単独で幹事館をするのは難しいとの意見あり。
主幹事・副幹事のように2館で幹事を務め、翌年は副幹事の館が主幹事となりもう1館の副幹事と
一緒に務める、という案に賛成の館が多かった。
来年度については、主幹事は神戸・副幹事は明石の2館で務めるのはいかがか提案。
後日、神戸から明石に個別に相談させて頂く予定。
加盟館のリストがあれば、何年後に回ってくるかがわかって良いという意見があったため、
今後は、この年度にこの館が主幹事または副幹事というリストを作ることを検討する。
連携協の指示も仰ぎながら共有させて頂く。

③その他、各館からの提案議題
なし

以上